令和2年8月4日

ホテル宿泊療養におけるポビドンヨード含嗽の

重症化抑制にかかる観察研究について

大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター

次世代創薬創生センター長　松山晃文

**【背景】**

　SARS-CoV2は口腔内でウイルスが増殖、唾液中にウイルス量が多い特性

COVID-19患者の唾液中ウイルス消失低減で、肺炎など重症化抑制可能と想定

ポビドンヨードは広範囲なウイルスに対し、殺ウイルス効果を有する

**【これまでの研究成果】**

ホテル宿泊療養COVID-19患者を対象（府健康医療部のご協力）

ポビドンヨード含嗽の有無と唾液PCR陽性頻度を評価



結果：ポビドンヨード含嗽で宿泊療養者の唾液ウイルス陽性頻度は低下する

**【本観察研究の概要】**

ホテル宿泊療養施設でのポビドンヨード含嗽の重症化抑制にかかる観察研究

　　大阪府市と連携のもと、大阪ホテル宿泊療養施設を研究fieldとする。

入所者にポビドンヨード含嗽をして頂く。

当該含嗽者データ、既存非含嗽例データを大阪府市から提供頂き、比較検討。

宿泊療養から医療機関への入院搬送をendpointとして評価。

**【大阪府市・府立病院機構・はびきの医療センター連携の枠組み】**

大阪府市の役割：宿泊療養の健康観察項目と医療機関入院情報の提供

はびきの医療C ：研究倫理申請・審査、研究の実施、解析

府立病院機構　：研究リソースのサポート

**【波及効果】**

ポビドンヨード含嗽によるCOVID-19患者唾液中ウイルス低減・消失の加速

患者さんへの寄与：唾液ウイルスの誤嚥によるCOVID-19肺炎への悪化抑制

医療現場への寄与：重症例比率低下による医療負荷の軽減